

# 東海テレビ

## 2025年度の取り組み



東海テレビ  
ONE-FAN

「**〈東海テレビ放送 経営理念〉**

**感動と勇気を創造し  
人々の役に立つ企業で  
あり続ける**」



## Contents

- P 2 ..... ごあいさつ
- P 3 ..... Section 01. コンプライアンス順守の取り組みと  
週刊誌報道への対応について
- P 5 ..... 第三者意見Ⅰ
- P 6 ..... Section 02. 人権尊重と心理的安全性の高い職場を目指して
- P 7 ..... Section 03. 東海テレビの様々な取り組み
- P 13 ..... Section 04. 被災地支援の取り組み
- P 15 ..... Section 05. 視聴者の声を活かす取り組み
- P 16 ..... 第三者意見Ⅱ
- P 17 ..... この1年の取り組み
- P 18 ..... おわりに

## ごあいさつ

いつも東海テレビをご覧いただき、また番組やイベントなどに多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年は、「びーかんテレビ不適切テロップ問題」から15年の節目となります。問題以降に入社した従業員も増えていますが、当時失った信頼の大きさを改めて重く受け止め、「風化させない」という決意のもと、コンプライアンスと放送倫理の向上に引き続き取り組んでいます。

一方で、昨年秋には当社に関する週刊誌報道により、皆様にご迷惑とご心配をおかけしましたことを改めて深くお詫び申し上げます。皆様からの信用・信頼をより確かなものとするため、私達は複数の施策を実行しています。それらを着実に実行し積み重ね、コンプライアンスとガバナンスの強化を図ってまいります。

人権尊重は企業にとって最重要課題の一つです。当社も事業活動における人権尊重を重要な経営課題と位置づけ、昨年9月に「東海テレビグループ人権方針」を制定しました。放送の公共性・公益性と報道機関としての社会的責任を認識し、人権と多様性が尊重される社会の実現を目指しています。この方針のもと、従業員はもとより関係するステークホルダーの皆様とともに、人権尊重と適切な対応を着実に実践していきたいと考えています。

今年3月には、全社一丸でファンづくりを進める象徴として、新たなタグライン「ONE-FAN」を策定しました。詳しくはこの冊子でもご紹介していますが、当社のブランド価値と進むべき方向を明確にするものであり、本年度はその基盤となるコンテンツの強化に力を入れてまいります。地域の皆様に喜んでいただける番組やイベントに加え、新規事業やCSR・SDGs活動にも積極的に取り組みます。

この地域では、まもなく「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会」が開催されます。2005年の愛・地球博以来の国際的イベントであり、東海テレビも地元放送局として、競技報道にとどまらず、さまざまな形で大会の盛り上げに貢献してまいります。

放送を取り巻く環境は大きく変化していますが、挑戦を重ねて皆様から愛されるテレビ局を目指し、地域に貢献していく所存です。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

東海テレビ放送株式会社  
代表取締役社長

林 泰 敬



# コンプライアンス順守の取り組みと週刊誌報道への対応について

## 放送倫理を考える全社集会

### テーマは「フジテレビ問題から何を学ぶか？」

「放送倫理を考える全社集会」は、私たち一人ひとりが「放送倫理」について考え直すとともに、2011年の「びーかんテレビ不適切テロップ問題」を風化させないようにすることを目的に毎年8月に開催しています。昨年のテーマは「フジテレビ問題から何を学ぶか？」。まだ記憶に新しい「フジテレビ問題」を題材に人権尊重、コンプライアンスの徹底などについて社内の様々な部局の人が登壇しました。制作部からは、番組制作での女性出演者やスタッフ・視聴者との向き合いで気を付けていることについて報告がありました。女性アナウンサーからは「問題を経て、感じた職場環境の変化や、一緒に働く皆さんにお願いしたいこと」といった内容を報告。そのほか、採用活動や営業面における問題の影響についてなど、発表内容は多岐にわたるものとなりました。

参加者からは、「登壇者がバラエティに富んでおり、様々な部局の対応を知ることができ有意義だった」「登壇者のほとんどが『自分ごととして受け止めることの大切さ』に言及していたのが印象的だった」「ハラスメントへの当社の取り組みこそが問われていると痛感した」などの感想が寄せられました。

視聴者の方々から信頼されるテレビ局になるために近道はありません。フジテレビ問題を契機に、ガバナンス・人権対応・情報発信の迅速性が問われ、コンテンツ戦略と信頼確保がさらに重要な時代になってきたことを、改めて全社で共有する場となりました。



「放送倫理を考える全社集会」の様子

## 第三者機関 オンブズ東海

びーかん問題を契機に、2012年に発足した第三者機関「オンブズ東海」は、法律・マスコミ・経営の専門家に委員を委嘱し、第三者の立場から東海テレビの番組・事業活動を監視していただいています。年4回、3か月ごとに開催している「オンブズ東海委員会」では、それぞれ専門の立場から意見をいただき、社内にフィードバックすることで改善につなげています。

### オンブズ東海委員の皆さん 2026年7月1日現在

橋本 修三 委員長 弁護士  
白田 信行 委員 中部日本ビルディング（株）代表取締役社長  
安藤 史江 委員 南山大学教授



オンブズ東海委員会

## コンプライアンス委員会 コンプライアンス責任者会議

「コンプライアンス委員会」は、役員・局長・グループ会社役員などをメンバーとし、半年に1回開催しています。社内のコンプライアンス及び情報セキュリティに関する案件について、役員・局長等が情報共有及び対応策を協議し、グループ全体で方針を決める場としています。

「コンプライアンス責任者会議」は、各部の所属長全員を「コンプライアンス責任者」に任命し、年4回開催しています。会議にはグループ会社の担当者も参加し、法令順守や放送倫理、情報セキュリティなどに関わる事項について、情報共有と注意喚起する場を設けています。全従業員が放送に携わる「放送人」として、コンプライアンスを意識しながら業務にあたることができるようこの会議を運営しています。



コンプライアンス責任者会議

東海テレビは、2011年の「びーかんテレビ不適切テロップ問題」を機に、コンプライアンス関連の取り組みを強化し、今年で15年目を迎えました。社内外から受け止めたアラームを東海テレビの日々の活動・業務に反映させるとともに、トラブル事案の共有、放送倫理教育、放送人研修などの取り組みを行っています。ここではその一例と昨年11月の週刊誌報道、その後の対応・施策もご紹介します。

## 週刊誌報道と信頼回復の取り組みについて

2025年11月発売の週刊誌に当社会長（当時）に関する記事が掲載されました。当社は対策本部を設置するとともに、記事の事実関係を客観的に確認するため、外部有識者と常勤監査役からなる調査委員会を立ち上げました。その後、調査委員会が関係者への聞き取り等をもとに事実関係を確認し、調査報告書が12月22日に社側に提出されました。

報告書では、週刊誌に掲載された行為について、セクハラに該当するような言動をしていたとは言えないものの、「このような写真が撮られるような行動それ自体が極めて不適切なものであったとの誹りを免れない」と結論付けられました。また、報告書の中では、全社的なアンケートを行ってハラスメントの有無等について内在する問題点を継続的にモニタリングすることや、内部通報窓口の一層の充実などの提言もなされました。

調査報告書が提出された同日に臨時のオンブズ東海委員会が開催され、報告書の内容をもとに社に対する提言が出されました。

12月24日には調査報告書、オンブズ東海の提言等を踏まえ、当社の対応を決定。同日に実施した記者会見では、週刊誌報道に関する今後の対応として4つの施策を説明、ホームページでも公表しました。

1つ目は、「職場環境とハラスメントに関する調査」の実施。外部の弁護士法人に依頼し、役員・従業員・スタッフら約590名を対象とした大規模なアンケートを実施。その後、第2段階として100名規模のヒアリングを行いました。今後、調査結果がまとまり次第、社側に報告書が提出される予定です。

2つ目は、「内部通報制度の再確認」。東海テレビとグループ会社の内部通報窓口「ヘルプライン東海」をより相談しやすく、安心して利用できる制度にするため、新たに女性弁護士を外部窓口の担当として4月に選任、誰もが内部通報制度を利用しやすい環境の整備を進めています。

3つ目は、「会食・会合に関するガイドライン」の策定。業務に伴う会食において、意に沿わない参加の強制やハラスメント等の人権問題が発生しないよう、注意すべき事項をルール化。4月からの運用開始に先立って、全社説明会を実施し、ガイドラインの周知を図りました。

4つ目は、「役員を対象としたコンプライアンス・ガバナンス研修」の実施。外部弁護士を招き、「人権尊重とハラスメント防止」「コーポレートガバナンスと役員の責任」といったテーマで研修を2026年1月から4回にわたって実施しました。経営層自らが意識をアップデートし、率先してコンプライアンスを順守できる体制を目指します。なお、この研修は今後も継続して実施します。

当社はこれらの施策を通じて、誰もが安心して能力を発揮でき、互いを尊重し合える風通しの良い職場を実現することを目指していきます。



社内に掲出された「ヘルプライン東海」周知ポスター



「会食・会合に関するガイドライン」説明会

## 第 三 者 意 見 I

# 信頼回復への取り組みに期待する

オンブズ東海委員長 橋本 修三

週刊新潮に掲載された記事は、東海テレビや協力会社各社員の皆さんに大きな衝撃を与えたと思う。その後の調査結果や顛末はご存じのとおりである。

東海テレビは、商業放送を行う民間放送事業者であるが、公共の財産である電波を利用する免許を与えられて事業を行っている。放送の先には多数の視聴者が存在し、その社会的影響力は計り知れない。その意味で、放送局には公共性が求められており、影響力が大きいところから、重い社会的使命と責任を負っていることを認識しておく必要がある。

こういった観点からすると、今回の事案に関して東海テレビが調査報告を受け、直ちに「週刊誌報道と信頼回復への取り組み」として4つの施策を公表し、進めていることは適切な対応として評価できる。

外部の弁護士法人によるハラスメント及び職場環境に関する調査は、これまでよりも本格的な調査で、外部機関が関わることでより透明性が高まる。調査結果を踏まえてさらなる適切な対応を期待したい。

また、内部通報制度の拡充や役員対象の研修は、既に整備されているものであるが、さらにこれを充実させるものである。

今回、新たに会食・会合に関するガイドラインが策定された。ともすれば飲酒を伴う会合の場において、ハラスメントが発生しやすいのはよく知られているところである。ただ、ガイドラインが一人歩きをして社員の皆さんが萎縮されないことを望む。東海テレビは、民間企業であり、主に広告収入にその経営基盤を置いているわけであるから、会社の活力を削ぐような運用は好ましくない。皆さんにはガイドラインが策定された経緯や目的を正しく認識したうえで、過度に萎縮することなく東海テレビが再び信頼を取り戻すために結束して取り組んでいただきたいと思う。



橋本 修三（はしもと しゅうぞう）氏

名古屋市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、1987年 弁護士登録（愛知県弁護士会）。1992年橋本法律事務所を開設し、現在に至る。2012年1月よりオンブズ東海委員。

## Section 02

# 人権尊重と心理的安全性の高い職場を目指して

公共性・公益性が求められる私たちにとって、人権を尊重し、互いを認め合う企業風土を育むことは、視聴者や地域社会からの信頼を得るために必要不可欠なものです。また、心理的安全性の高い職場は、コンプライアンスの徹底やより良いコンテンツの提供にもつながると考えています。当社が人権尊重と健全な組織風土の醸成のために実施してきた取り組みをご紹介します。

## 東海テレビグループ人権方針

東海テレビグループは、事業活動における人権尊重を重要な経営課題と位置づけ、2025年9月に「東海テレビグループ人権方針」を策定しました。国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」や旧ジャニーズ事務所問題、フジテレビ問題なども踏まえ、放送の公共性・公益性を担うメディア企業として、人権や多様性が尊重される社会の実現を目指しています。

この方針は、グループの役員・従業員を対象としていますが、取引先、番組出演者、取材先、視聴者など事業活動に関わる幅広いステークホルダーもこの方針を順守することを期待しており、人種、国籍、性別、年齢、障がい等を理由とした差別やあらゆるハラスメントを認めないことを明確にしています。またグループで働く従業員の権利尊重や心理的安全性の確保、コンテンツ・サービスにおける人権配慮を推進しています。

施行に先立ち、グループの全役員・従業員を対象に説明会を実施。相談窓口を設置するなど、人権侵害の防止と適切な対応に努めています。今後もステークホルダーとの対話を重ねながら、人権尊重の取り組みを継続的に推進していきます。

東海テレビグループ人権方針は[こちら](#)からご覧いただけます



説明会の様子

## 2025年度 第2回放送人研修会

今年3月23日に開催した放送人研修会のテーマは「心理的安全性の高い職場は周囲への『リスペクト』から」。ここ数年で大きな広がりを見せる「リスペクト・トレーニング」を実践、体感する機会としました。

「リスペクト・トレーニング」とは、動画配信サービスNetflixが開発したワークショップ型トレーニング。作品制作に携わるすべての人が、互いを「リスペクトしあう」という共通認識を持つことで、誰もが能力を発揮できる職場環境を目指すというものです。

研修会は会場となったスタジオのほか、リモートや事後視聴も実施し、多くの従業員が参加しました。



講師のピースマインド（株）田中秀憲氏

## 内部通報窓口 「ヘルプライン東海」の拡充

東海テレビでは、グループ各社を含むすべての従業員などを利用対象とした内部通報制度を2012年より設けています。窓口は社内と社外にあり、社内はコンプライアンス推進部担当者が担い、社外は弁護士に窓口業務を委嘱しています。

制度の運営に当たっては「公益通報者保護法」および社内規程に則り、通報者等が特定されないこと、また、通報したことを理由に通報者の就労環境が悪化することがないよう細心の注意を払っています。

昨年の週刊誌報道の施策の一つとして、「ヘルプライン東海」をより利用しやすいものにするため、今年4月より女性弁護士の社外窓口を新たに設置。これにより当社の社外窓口は、2か所体制となりました。これからも東海テレビグループで働くすべての人が安心して就業できるよう、サポートを続けていきます。

## 東海テレビの様々な取り組み

### タグライン【ONE-FAN（ワン・ファン）】に込めた想い

コーポレートブランディング部 時田一雄

#### 地元から信頼される応援団へ

タグラインにこんな想いを込めました…

「私たちはまっすぐな姿勢で歩み、年齢・性別・価値観の違いを超えてあらゆる人へ届けていく。素晴らしい地元の魅力、心を揺さぶるワクワクやときめき、日常を支える情報や価値観、明日へ一歩を踏み出す勇気を。地元を応援し、応援される会社へ。」

タグラインとは、企業が提供できる価値や想いを簡潔に表現した短いフレーズのこと。2024年に始まったタグライン制作は「私たちは地域に何を届けられるのか」と向き合う取り組みでした。従業員アンケートやワークショップを通じて浮かび上がったのは、真面目に一生懸命、地元へ寄り添い魅力を伝える“応援団”の姿です。この姿勢を言葉にできないかと考え、たどり着いたのが【ONE-FAN】でした。

東海エリアの魅力や情報を発信することで、地元の皆さんの信頼を得て、東海テレビの大切な【FAN】となってもらいたいータグラインにはそんな想いが込められています。

そして、このタグラインは、東海テレビで働く一人ひとりへのエールでもあります。仕事で迷った時、行き詰まった時は【ONE-FAN】を思い出して、進む方向や、目的にもう一度気づいてほしい。声を掛け合い、助け合い、一緒に前へ進もう…そんな願いも詰まっています。

【ONE-FAN】の想いを胸に、私たちはこれからも地域を応援し、応援される存在であり続けます。



ワークショップの様子



本社正面玄関の装飾

### スイッチ！サタデー

制作部 服部篤幸

#### 土曜朝の生放送をスタート！

朝の情報番組「スイッチ！」が2025年10月から土曜朝の生放送を始めました。平日の「スイッチ！」の視聴者はもちろん、新たな客層を獲得することが命題です。土曜は視聴者の年齢層が幅広いため、平日よりもややテンポ感を上げて、情報を幅広く捉える形で制作しています。

週末のお出かけに気になる「気象情報」やグルメや旅などの「特集」に、球団創設90周年を迎える「ドラゴンズ情報」や、昭和の写真を手掛かりに今の風景を探す「昭和すいっち！傑作選」、休みにすぐに作れる簡単レシピ「週末キッチン」などで構成しています。出演者には、愛知・瀬戸市出身の瀬戸朝香さん、岐阜・養老町出身の敦士さん、三重・伊勢市出身のM!LK曾野舜太さんら東海地方を代表する方を中心に起用しています。情報番組がひしめく昨今、他番組とどう差別化し存在感を出せるか試行錯誤を繰り返しています。常に心がけているのは「東海地方の皆さんが地元を誇らしく、楽しく思ってもらう」ことです。



ドラゴンズグッズを身に着け応援



生放送のスタジオ



特集ロケ

**SWITCH**  
**スイッチ!**  
**サタデー**

毎週土曜  
午前10:23～11:45

### とよねの花

スポーツ部 神谷英政

#### 小さな村の大きな挑戦

今年の正月早々、取材で豊根村へ。マイナス10度の猛吹雪の中、行われていたのは700年以上続く伝統芸能「花祭」。舞庭と呼ばれる土間で一晩中舞が続きます。深夜に及ぶ取材でしたが、豊根村にはホテルのような宿泊先はありません。村の方の自宅で仮眠、食事もご馳走に。皆さんの温かい心に包まれながら今回の番組を制作しました。愛知駅伝から始まった豊根村と名城大学女子駅伝部の交流。そのきっかけは、番組解説を務める名城大米田監督の「豊根村のためになりたい」という言葉からでした。女子駅伝のトップ選手たちが、アマチュアの中のアマチュアでもある豊根村の選手たちと一緒に走る。本来であれば絶対に起きないこと、そんな場面に立ち会い、取材させていただいたことに感謝しています。直接的に村のためになれたのかはわかりませんが、今回の交流を通じて見えた子供たちの笑顔がすべてだったと思います。今回の番組はYouTubeチャンネル「[東海テレビ陸上部](#)」でも引き続き配信なので、あの笑顔と豊根村の名前が少しでも多くの人に広がっていくと嬉しいです。

とよねの花 2026年2月14日放送



練習会后



名城大の選手と一緒に走る

### ブラジル団地

報道部 高木日菜乃

#### “地球の裏側から来た区長”が教えてくれたこと

愛知県豊田市の「保見団地」。住民の6割以上が外国にルーツを持つこの地で、外国籍として初めて区長に就任した日系ブラジル人、林ロベルト重良さん（68）に出会いました。半年間の密着取材で目にしたのは、高齢化や孤独死、教育格差といった日本社会の縮図ともいえる団地の課題に、林区長がひとつひとつ懸命に向き合う姿です。取材で驚かされたのは、林区長をはじめ外国籍の住民を中心とした取材対象者の皆さんが、初対面にもかかわらず快く取材を受け入れ、家の中に招き、心の内をオープンに語ってくれたこと。コンプライアンスや個人情報保護が優先される現代の日本において、そこには失われつつある「人と人本来の温かい距離感」がありました。「昔の日本の良さが失われている」と語りながら『男はつらいよ』を鑑賞する林区長の言葉には、助け合いの精神を問い直す重みがあります。地域のため、世のため、人のため一周りを巻き込みながら活動し輪を広げていく林区長の生き方は、国籍や制度の枠を超え、現代を生き抜くヒントを教えてくださいました。真の意味での「共生」とは何か。今後も外国人政策の動きに目を向けて取材し、問い続けたいと思います。

ブラジル団地 ふるさとは二つ、世界は一つ

2025年5月29日放送



林ロベルト重良さん



林家の誕生日会にて 7人の孫に囲まれる林さん

## 変わらない選挙報道の使命を果たす

報道部 岩佐雄人

## さらなる「事前報道」の充実も

報道部ではめったにないゴールデンタイムの生放送「開票特番」はまさに“お祭り”。選挙期間中に撮りためた“とおき映像”を一気に見せ、1秒でも早い当選確実に全力を注ぐ。私が記者として関わってきた国政選挙はそんなイメージでしたが、ここ数年、大きく風向きが変わってきているように感じます。

SNS全盛のいま、ひとたび選挙が始まると候補者や政党の露出を秒単位で揃えることに代表される、とすると“腰の引けた”と見られるテレビ報道のスタイルが、有権者の判断に役立っていないという指摘が増えてきました。伝えるべきことがあれば、むしろいやや当然、投票日の前に視聴者にお届けしなければいけません。

今回の衆院選では、開票特番「選挙ONE」だけでなく日々の「ニュースONE」でも、より多く選挙の情報をお伝えするよう、これまで以上に心がけました。誰もが予想しなかった解散のタイミングだったこともあり「事前報道」が十二分にできたとは言えません。これからも地域の皆さんの期待に応えられるよう、時代に即した方法で、変わらない選挙報道の使命を果たしていきたいと思っています。

ニュースONE 月～金 15:42～19:00放送  
選挙ONE 2026年2月8日放送



選挙ONEスタジオ



街頭演説に集まる人々

## 視聴者の様々なニーズに応えるための取り組みについて

東海テレビでは、テレビをご覧になる方の様々なニーズに応えるため取り組みを行っています。その一例をご紹介します。

## ① 災害時の番組対応

災害や緊急時には、番組放送中でも画面にL字型の情報枠を表示し、気象情報や交通情報、避難情報などを速やかにお伝えしています。地域の皆さまの安全・安心を支えるため、迅速かつ正確な情報提供に努めています。2025年度は、7月のカムチャツカ地震、9月には台風15号の接近・上陸の際にL字型の情報枠で地域の皆さまに向け情報をお伝えしました。

## ② 字幕放送

主に耳の不自由な方や、テレビの音声がかえにくい高齢者の方にテレビ番組を楽しんでいただくため、ニュースやドラマ、バラエティ番組などで、ドラマのセリフやナレーションなどの音声を文字表示する字幕放送を実施しています。2025年度は、「介護スナックベルサイユ」などの土ドラをはじめ、「ぐっさん家」、「千原ジュニアのへべレケ」などで字幕放送を実施しました。

## ③ 解説放送

主に目の不自由な方にテレビ番組を楽しんでいただくため、音声だけでは伝えきれない状況描写（場面設定や出演者の表情やアクションなど）を音声で補足解説し、副音声でお伝えする解説放送を実施しています。2025年度は、ゴールデンタイムのドラマをはじめ、自社制作番組では「報道特別番組・東海テレビひまわり賞『太陽のように』」などで解説放送を実施しました。

## ④ 手話放送

主に耳の不自由な方へ情報をお伝えするため、番組中のナレーションなどの音声を手話通訳し、画面上に表示する手話放送を実施しています。2025年度は、愛知県広報番組「村上佳菜子の週刊愛ちっち」などで手話放送を実施しました。

## グラン・ドリーム・バレエ・フェス2026

東海クラシック事務局 兼 事業部 松鷹裕介

## 世界的プリマが夢の競演！

## 地元若手ダンサーと創り上げる“バレエの祭典”

トップバレエダンサーと地元の若手ダンサーが共演する「グラン・ドリーム・バレエ・フェス2026」を、2月22日（日）、23日（月祝）に愛知県芸術劇場大ホールで開催しました。

3回目を迎える本公演では、日本を代表するバレエダンサーの中村祥子さん、米沢唯さん、海外のバレエ団で活躍されている佐々晴香さんをゲストに迎え、オーディションで選ばれたバレエ界の未来を担う地元若手バレエダンサーおよそ180名と一緒に舞台を創り上げました。

トッププリマの華麗な技術と表現力は観客を魅了し、そのプリマと同じ舞台に立つという夢のような体験に向け、数か月にわたり厳しい稽古を重ねた地元若手ダンサーたちのひたむきな努力も感動を呼び、見応えのある華々しい舞台となりました。

所属するバレエ団やスタジオの枠を超え、地元のバレエ指導者、振付家、若手ダンサーが集結したこの取り組みは、東海地方のバレエ界の活性化と、今後のバレエ界を担う若手の育成に大きな成果をもたらしています。

事業部では、これからも様々なイベントの企画、開催を通じて、この地域に寄り添い、文化やスポーツの発展に寄与できるよう取り組んでまいります。



©wakoophoto

## 東海テレビ1チャンまつり

営業推進部 北岡昭子

## 『1チャンがもっと好きになる2日間』

ひとりでも多くの方に1チャンネル（＝東海テレビ）のファンになってもらいたい！そんな思いで開催した「東海テレビ1チャンまつり」。久屋ステージでは、「スイッチ！」や「ぐっさん家」などの公開生放送を行いました。

テレビでおなじみの出演者に会えるチャンスとあって、雨にもかかわらず多くの番組ファンにお越しいただきました。「ドラHOT+」ではドラフト指名選手とドラファン・サカナクションの山口さんが登場し、会場は大いに盛り上がりしました。さらに地元高校生による書道パフォーマンス、吹奏楽やダンスなど清々しい熱演に会場中が元気をもらいました。

また、被災地支援の思いから、今回も岩手・宮城・福島と熊本の「復興応援ブース」を設け、ドラマ『花嫁のれん』とコラボした能登復興支援マルシェ、福島のおいしい魚を紹介するキッチンカーには行列も。

番組ブースでは、テレビ離れが進む若い世代にも東海テレビをもっと知ってほしいとの願いをこめ、キャスター体験やフォトブース、番組おすすめグルメやオリジナルグッズ販売などを実施。あいにくの雨でしたが、テレビの楽しさを身近に感じられる1チャンの魅力を詰めこんだ2日間となりました。これからももっとワクワクを届けるイベントになるよう進化をめざします。



東海テレビ 1チャンまつり  
2025年10月25日(土)、26(日)  
久屋大通公園（名古屋市中区）



大雨に負けない！三重高校ダンス部のステージ



「スイッチ！」ブースはいつも行列が



愛知商業高校の書道パフォーマンス

## 誰もが希望を持てる明日へ

社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団 松岡 太一

## 東海地方の福祉の向上をめざして

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は東海地方の障がい者やお年寄り、子どもたちの福祉の向上を目的に1979年に設立されました。年間を通じて「愛の鈴しあわせキャンペーン」として募金活動を実施しています。

その他にも1982年からは皆さまから寄せられた義援金を元に、東海3県と名古屋市の障がい者の福祉に携わっている社会福祉団体へ軽自動車「愛の鈴号」を贈呈しています。昨年度で44回目、贈呈車両数は300台となりました。

また、1983年からは身体機能のハンディを克服し、社会的に自立・活躍している地域在住の方々に「東海テレビひまわり賞」を贈り顕彰しています。こちらは昨年度で43回目を迎え、顕彰者は281名を数えることとなりました。一昨年より受賞者の方を紹介する番組「太陽のように」を放送しています。

また、この地方にゆかりの作家の作品を集めて「愛の鈴チャリティ東海美術作家展」を主催、純益のすべてを東海地方の社会福祉の向上に役立てていただいております。

これからも、誰もが希望を持てる明日へ向かって微力ながらも力となるよう地域社会の福祉の向上に努めてまいります。



愛の鈴号



「ひまわり賞」顕彰の様子

## 東海テレビのサステナビリティ

CSR推進部 勅使河原 由佳子

## ステークホルダーとともに創る持続可能な未来

東海テレビは、メディア企業としての社会的責任を果たすため、放送やイベントなど本業を通じた社会価値の創出や、地域に根差した社会貢献活動に取り組んでいます。2025年度は、地域との協働による取り組みに加え、従業員との対話を重視した1年となりました。

その一環として、林社長と従業員が少人数で直接対話する「スモールミーティング」を実施しました。全16回、計146名の従業員が参加し、「会社の未来」、「地域に対して貢献できることは何か」などについて率直な意見交換を行い、従業員の様々な考えやリアルな声を経営や組織づくりに活かす取り組みを進めました。

社会やメディアを取り巻く環境が大きく変化する中、こうした声を大切にしながら地域に新たな価値を届け続けることが、東海テレビのサステナビリティにつながるものと考えています。今後も様々なステークホルダーとの対話を大切にしながら、社会や地域の課題解決につながる価値創出に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当社のサステナビリティ活動をまとめた「サステナビリティレポート2025」は[こちら](#)からご覧いただけます。



スモールミーティング

## 地域の魅力を、全国へ 東桜デパート

ビジネスプロデュース部 村野 晋

## 地域の逸品を、生産者の想いとともに

お取り寄せウェブストア「東桜デパート」は、2024年4月のオープンから2年が経過しました。当初は食品を中心に40ブランド・約200商品だった品ぞろえは、2026年3月末には100ブランド・600商品以上へと広がりました。愛知・岐阜・三重を中心に、東京、京都、石川、静岡、長野など全国各地のブランドにもご参加いただき、お客様も全国へと広がっています。

しかし、EC事業は想像以上に難しい仕事です。どの商品がお客様に選ばれるのか、どのように魅力を伝えればよいのか、今も試行錯誤の連続です。そんな中、私たちを支えてくれるのが生産者の皆さんです。商談でお話を伺うと、70歳を過ぎても早朝3時に起きて仕込みを続けるパティシエや、理想の味を追い求めて何度も試作を重ねる職人の方々に会います。その姿に触れるたび、「私たちも頑張ろう」と力をいただいています。また、お客様から「贈り物にしたらとても喜ばれました」「また利用します」といったメールをいただくこともあり、大きな励みになっています。累計1,200件を超えるお問い合わせ対応も、一件一件真摯に向き合ってきました。

東海テレビの情報番組やニュース番組では、生産者の想いや丁寧な手仕事を紹介しており、放送後には多くの反響をいただいています。最近ではフジテレビでCMを放送したほか、テレビ西日本の番組でも東桜デパートを紹介いただくなど、系列局との連携も広がっています。

3年目を迎える東桜デパート。これからも地域の魅力あふれる逸品を発掘し、東海地方から全国へ、そして全国から東海地方へ、人と人をつなぐ架け橋となるよう取り組んでまいります。



系列局の番組へ出演しPR



商品撮影も大事な仕事

## 事業会社の新規事業創出を支援するプログラム Edge

経営戦略局 戸松 準

## 企業の新規事業を世の中へ広げる

## メディア・アクセラレーター

新規事業の創出をミッションの一つに掲げる経営戦略局にて、2025年3月に立ち上げた《Edge》。事業会社の新規事業を東海テレビのメディア力で支援するサービスです。おかげさまでこの1年で参加企業は延べ24社に達し、東海地区にとどまらず東京・大阪など全国からの参加も広がっています。事業会社が新規事業に挑む熱は全国へ確実に波及しており、今や経済の大きな潮流の一つとなっています。そしていよいよ今年、Edge参加企業から新規事業が次々に生まれはじめています。《Edge》は「生み出し」から「育て・広げる」まで一気通貫で支援するサービスなので、メディア力を活かした新たな取り組みにも積極的に挑戦します。東海テレビのメディア力と新規事業のプロである守屋実氏・粟生万琴氏の専門知見を掛け合わせた「メディア・アクセラレーター」として、今後、事業会社の挑戦を全国へ広げる存在へと進化していきます。そして地域から日本全国へ、挑戦が当たり前になる社会の実現に向けて参加企業と共創を続けてまいります。



## 被災地支援の取り組み

## 14年目の岩手訪問

社長室 伊藤順子

## わたしたちにできること

「わたしたちにできること」。この合言葉のもとで、私たちはローカルメディアとしての社会課題の解決と社会貢献に取り組んでいます。そして、1年に一度の岩手県への訪問は、東海テレビが「企業の社会的責任」をどう果たすべきかを、深く考える機会になっています。あれから14年。会長、社長に同行しての2025年8月の岩手訪問では、「この1年の取り組み」の冊子を開き、私たちが1年かけて取り組んだことを、岩手県庁、そしてJA岩手県中央会、JA全農いわてで報告をさせていただきました。

当社の諸先輩方からは、長い年月をかけて、少しずつ前向きな対話ができるようになったと聞いていました。そして今回は、1年の取り組みをご説明した後、岩手県の方々から、メディアに期待する役割と責務を率直に口にしていただきました。

それは、丁度その頃、各地で相次いでいたクマ出没による被害について話が及んだときでした。「私たちはそうしたことと隣り合わせで暮らしています」。取材の仕方、取り上げ方、伝え方について、しっかり皆さんにお願いしたいと、仰られました。

世の中で起きていることを、どう伝えるか？日々のニュースの報じ方に、何かしらの違和感を感じての言葉だったのかもしれませんが。センセーショナルに取り上げ過ぎてはいないか？そこに生きる人たちのことを考えて伝えているか？私たちが何を考えるべきかを伝えているか？ともに暮らしている人たちのことを考えているか？

岩手の人たちの重みのある言葉に、改めてメディアの責任を考えさせられ、社会的責任を果たしていかななくてはならないと、改めて感じた訪問となりました。



岩手県庁の皆さまと



JA岩手県中央会・JA全農いわての皆さまと

## この1年の主な被災地支援の取り組み

## ▶番組での取り上げ

|              |                |                                                                    |
|--------------|----------------|--------------------------------------------------------------------|
| ニュース<br>ONE  | 2025年 7月16日(水) | いわて食の商談会in名古屋（名古屋東急ホテル）                                            |
|              | 2026年 3月       | 特集コーナー「大谷ジャーナル」で、レギュラーコメントーターの大谷昭宏氏が3週間にわたって東北の復興への取り組みと現状・課題などを紹介 |
|              | 13日(金)         | 福島第一原発の廃炉に向けた原発内部や周辺漁港の現状等を紹介                                      |
| スイッチ!        | 2025年 5月28日(水) | 「第52回山形県の観光と物産展」会場から生中継（名鉄百貨店）                                     |
|              | 8月27日(水)       | 「第6回 岩手県の観光と物産展」会場から生中継（名鉄百貨店）                                     |
|              | 10月25日(土)      | 「1チャンまつり」福島県ブースから生中継<br>福島県常磐産のヒラメを使ったバーガーやメヒカリの唐揚げなどを紹介           |
| おぎやはぎ<br>テラス | 2025年 9月21日(日) | 「ごはんのおともSPコーナー」で、宮城県気仙沼市のあかふさ食品と久世福商店が共同開発した「大人のしゃけめんたい」を紹介        |
|              | 2026年 2月       | 千原ジュニアとゲストが、福島沖で水揚げされた鮮魚を使用する居酒屋を訪ね、ヒラメのお造りやアンコウ・メヒカリの唐揚げなどを紹介     |
|              | 19・26日(木)      |                                                                    |

## ▶岩手米の社内販売と社員食堂での消費

2025年10月から11月に岩手県産「岩手銀河のしずく」新米の社内販売を実施し、1袋5kg入を169袋販売。また、2025年度中に、社内食堂で岩手県産米「ひとめぼれ」3,475kgを消費。

## ▶東海テレビ1チャンまつり

2025年10月25日（土）・26日（日）に開催された「1チャンまつり」の復興応援コーナーで、岩手・宮城・福島・熊本県などのブースを設け、特産品の販売と観光PRを実施。また、「花嫁のれんマルシェ」では、能登復興支援のため、能登の特産品や「花嫁のれん」ゆかりのグッズを販売。

## 東日本大震災から15年…発災当時からつないだ「東北」への思い

報道部 沼田 亮

## 被災地で感じた「伝え続ける使命」

2011年3月11日に発生した東日本大震災。東北地方を津波などが襲い、福島第一原発がメルトダウンする原発事故も起きました。報道部では発災当時から、ジャーナリストの大谷昭宏氏と共に被災地の取材を続けてきました。

あの日から15年の今年、原発事故の被害を受けた福島県を取材しました。東海テレビ報道部としては初めて福島第一原発の廃炉作業の現場に入ったほか、川俣町や浪江町の前事故からの復興に焦点を当てました。そこでは、ふるさとに戻れない人がいまでも多く、街並みは当時の姿を取り戻しつつあるものの、心の痛みはまだ消えていない現状など、“見えない被害”が残されていました。ただ、愛知県日進市から川俣町に派遣されたあとも川俣町で勤め上げ、退職後も支援を続ける男性や、臨時休業中の老舗旅館を再開させるために力を尽くす大学の放射線衛生学の准教授など、“県外の人”が復興を支援していました。その姿に私も、伝え続けることの使命感を感じました。

東海テレビ独自の視点を持って被災地を見つめ、歴代の記者からバトンをつないできた東日本大震災の取材。あの時の記憶を風化させないため、これからも取材を続けていきます。



福島県浪江町で臨時休業からの再開を支援する放射線衛生学の准教授を取材する大谷氏



福島第一原発でリポートする大谷昭宏氏

## 『羽田美智子 笑顔芽吹く旅 ～春、石川・能登へ』制作を通じて

制作部 桑原 希

## 「会いに行きたい」を届ける旅番組づくり

東海テレビでは、連続ドラマ『花嫁のれん』の制作以来、石川県との交流を大切にしてきました。また、2024年1月1日に発生した能登半島地震以降は、復興に関する番組制作や「1チャンまつり」でのチャリティー活動などを通じて、テレビ局としてできる支援を続けてきました。震災から2年が経ち、石川・能登を舞台にした番組制作の話をいただいた際、私は中途入社3年目という立場で、『花嫁のれん』から続く局の想いを背負えるのか不安を感じていました。

まずは自分の目で現地を見ようと、一人で石川を訪れました。取材先や出演者を検討する中で、復興へ向けて前向きに歩み続ける石川・能登の皆さんの声を、一人でも多くの方に届けたいという思いが強くなりました。番組では、羽田美智子さんの“第二の故郷”とも言える石川・能登を巡り、営業を再開した店や新たに生まれた場所、人々との交流を描きました。旅番組には、「会いに行く・食べる・泊まる・会話する」ことで、人と人とのつながりとして地域を伝える力があります。「被災地を応援したいから行く」のではなく、「あの人たちに会いたい」と思ってもらうことこそ、私たちテレビマンの役割だと改めて感じました。本作は、能登で懸命に前を向く人々の笑顔が詰まった温かい番組となり、私自身にとってもテレビ制作の原点を再確認する機会となりました。

2026年3月22日（日）放送



七尾市「和倉温泉お祭り会館」にて



実際に使用されていた「花嫁のれん」に触れる

## 視聴者の声を活かす取り組み

私たち放送局にとって、視聴者の皆さまとの対話は、放送の公共性と信頼を支える重要な基盤です。視聴者対応窓口を通じて寄せられる貴重なご意見・ご要望や、番組審議会における第三者の視点からのご指摘を真摯に受け止め、日々の番組づくりや事業活動の改善に活かしています。これからも、視聴者の皆さまの声に誠実に向き合い、より信頼される放送局を目指してまいります。

### 東海テレビ放送番組審議会

番組審議会は、放送法に基づいてすべての放送局に設置が義務付けられている第三者機関です。東海テレビの番組審議会は8月を除く毎月1回開かれ、番組や放送全般に関するご意見をいただいています。委員は10名で、東海地方の経済、学術、法曹、文化など様々な分野で活躍する方々に委嘱しています。2025年度の審議会では、ドキュメンタリー、バラエティー、ドラマなどを議題として委員からご意見をいただき、当社の担当者がご質問などにお答えしました。今後も様々な番組を取り上げて委員から多様なご意見を伺い、番組作りに活かすことで、より一層信頼されるテレビ局となるよう努めてまいります。



#### 東海テレビ放送 番組審議会委員の皆さん 2026年7月1日現在 (50音順)

|        |       |                        |
|--------|-------|------------------------|
| 岡田 さや加 | 委 員   | 柳ヶ瀬を楽しいまちにする（株）代表取締役社長 |
| 桂 文我   | 委 員   | 嘶家                     |
| 河西 秀哉  | 委 員   | 名古屋大学教授                |
| 後藤 ひとみ | 委 員 長 | 愛知教育大学名誉教授             |
| 武田 健太郎 | 委 員   | 東海旅客鉄道（株）代表取締役副社長      |
| 竹松 千華  | 委 員   | （有）IDF代表取締役            |
| 田畑 豊   | 委 員   | （株）中日新聞社 常務取締役         |
| 鍋田 和宏  | 委 員   | 中部電力（株）取締役副社長執行役員      |
| 福谷 朋子  | 副委員長  | 弁護士                    |
| 横井 康人  | 委 員   | 名古屋鉄道（株）執行役員           |

### 視聴者対応窓口

ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者の皆さまのご意見は、「視聴者対応窓口」に電話、メール、文書などでいただいています。2025年度に寄せられたメッセージは約1万4,600件で、番組内容の問い合わせや意見、番組の放送要望などが届きました。寄せられたご意見やメッセージは、番組制作担当者、編成担当者などに伝え、今後の番組制作、番組編成の参考にさせていただきます。「視聴者対応窓口」では、皆さまのご意見やご批判を真摯にお伺いし、社内に伝えることで、より良い番組作りに役立ててまいります。

### 視聴者対応番組「メッセージ1」

視聴者の皆さまからいただいた問い合わせ・ご意見・ご要望などは、毎月第4日曜日午前5時15分から放送している「メッセージ1」で一部を紹介しています。番組では、番組審議会の議事概要、CSR活動、BPO事例なども報告し、東海テレビと視聴者の皆さまとの双方向のコミュニケーションを図る役割を担っています。



「メッセージ1」  
加藤晃アナウンサー

## 第 三 者 意 見 II

### ガバナンス強化の時代に問われる放送局の自浄能力

上智大学 音 好宏

この1年、日本の放送界は、いわゆるフジテレビ問題を契機にして、そのガバナンスのあり方について再構築を迫られた。フジテレビ問題は、単に1つの放送事業者内で発生したコンプライアンス不全を問われたのみならず、公共性・公益性が高く、かつ、言論・表現機関でもある放送事業者が、十分にガバナンスを確保できなかったことが露呈した事案だった。そのような事態において、フェアトレード概念を含め、国際的な人権意識の高まりのなかで、フジテレビに対するナショナル・スポンサーなどによるCM出稿の停止が相次ぎ、また、上場企業として、株式市場並びに株主からの厳しい批判に晒された。

フジテレビ問題は、その当事者であるフジテレビのみならず、関連会社や系列局の経営にも少なからず影響を及ぼすとともに、放送事業者への批判が高まるなか、放送の信頼性を損なうものとして、受け止められた。

そのような事態を重く見た総務省は、昨年6月に「放送事業者におけるガバナンス確保に関する検討会」を設置。放送事業者のガバナンス確保のあり方が検討された。同検討会が示した結論からいえば、言論機関としての側面も持つ放送事業において、第一義的に放送事業者の自浄能力を尊重するが、そのみならず、放送界が一丸となって、ガバナンスの確保に努めることが求められることとなった。言わば、放送業界として各放送事業者のガバナンス確保を担保する仕組みを用意することで、折り合いがつけられた形である。民放連は、この1月に開催した理事会で、昨年11月の理事会で決定した「民間放送のコーポレート・ガバナンス強化策」に基づき、「民間放送ガバナンス指針」を制定するとともに「ガバナンス検証審議会」の設置を決定。この「ガバナンス指針」は、この4月から施行されるとともに、この指針に基づいて、民放連会員各社のガバナンス向上を支援するとともに、会員社のガバナンス不全が民間放送全体の信頼を傷つけるような事態に備え、外部有識者を議長とする「ガバナンス検証審議会」がスタートした。他方で、総務省には「放送事業者におけるガバナンス確保の推進に関する円卓会議」が設けられ、放送業界の自浄作用が健全に機能しているかについて、報告を受ける受け皿が設けられた。

これらの放送事業者のガバナンス確保に関する議論が検討される過程において、東海テレビを含む複数の放送事業者で、コンプライアンス上の問題が指摘される事案が発生している。それらの事案発生時において、注視されたのは、当該事業者による自浄能力によって対処がなされるとともに、再発防止策が図られているかである。東海テレビでは、2011年の不適切テロップ問題を契機に、第3者で構成される「オンブズ東海」が活動を始め、放送人研修会、放送倫理の日の全社集会等の取り組みを続けている。このような継続的な活動こそが肝要であることは言うまでもないが、そのようななかで、今回の不祥事は発生した。その対応に関して東海テレビは、迅速、かつ、適切に対応したと認識しているが、それは「オンブズ東海」をはじめとしたコンプライアンスの仕組みが十分に機能したものと理解している。

他方において、昨年、私は本欄で「コンプライアンスに対する意識を、個々の構成員が、我がこととして自覚的に向きあい続けることこそが必要」と記したが、はたして、それが東海テレビの全ての構成員にしっかりと血肉化されているだろうか。今年も、改めてこのことを問う必要があるのではないかと申し上げておきたい。



音 好宏（おと よしひろ）氏

上智大学文学部新聞学科教授。1961年札幌生まれ。民放連研究所勤務。上智大学新聞学科助教授、コンピア大学客員研究員などを経て、2007年より現職。衆議院総務調査室客員調査員、NPO法人放送批評懇談会理事長などを兼務。専門は、メディア論、情報社会論。著書に『放送メディアの現代的展開』（ニューメディア）、編著に『地域発ドキュメンタリーが社会を変える』（ナカニシヤ出版）などがある。

# “ この1年の取り組み ”

## 2025年

**4月 2日（水）** 新入社員コンプライアンス研修  
**4月 3日（木）** 東海テレビプロダクション新入社員コンプライアンス研修  
**4月28日（月）** 第62回ギャラクシー賞  
〔CM部門〕奨励賞  
公共キャンペーン・スポット「#ハタチ #学生 #いま」  
**5月23日（金）** 第47回コンプライアンス責任者会議  
**5月30日（金）** 名古屋民放9社合同コンプライアンス研修「ビジネスと人権」  
**6月 9日（月）** オンブズ東海 第54回委員会  
**7月** 放送倫理を考える月間  
**8月 4日（月）** 放送倫理を考える全社集会  
「東海テレビこの1年の取り組み2025」発行、HPに公表  
社外アドバイザーとの意見交換会  
**8月22日（金）** 第48回コンプライアンス責任者会議  
**8月28日（木）** 林社長 岩手県等訪問〔～29日（金）〕  
**9月 8日（月）** オンブズ東海 第55回委員会  
**9月16日（火）** 個人情報保護・情報セキュリティ・社有PC運用等に関する内部監査  
〔～12月23日（火）〕  
ストレージメディア・個人情報管理台帳等棚卸し〔～11月 4日（火）〕  
**9月26日（金）** 第29回コンプライアンス委員会  
**10月25日（土）** 東海 テレビ1チャンまつり〔～26日（日）〕  
**11月18日（火）** 第49回コンプライアンス責任者会議  
**12月 4日（木）** 2025年度 第1回放送人研修会  
「より深く、より具体的に、フジテレビ問題について考える」  
**12月 8日（月）** オンブズ東海 第56回委員会  
**12月22日（月）** オンブズ東海 第57回委員会（臨時）  
**12月24日（水）** 「週刊誌報道に関する対応について」記者会見、HPに公表

## 2026年

**1月～3月** 役員コンプライアンス・ガバナンス研修  
第1回「人権尊重とハラスメント防止」〔1月26日（月）、30日（金）〕  
第2回「コンプライアンス違反から社員と会社を守るために」〔2月17日（火）〕  
第3回「コーポレートガバナンスと役員の責任」〔3月24日（火）〕  
**2月20日（金）** 第50回コンプライアンス責任者会議  
**3月 9日（月）** オンブズ東海 第58回委員会  
**3月10日（火）** 第30回コンプライアンス委員会  
**3月12日（木）** 春の定例社長会見  
タグラインの発表、新年度の番組・イベントに関する説明、  
ガバナンス強化・コンテンツ強化のQ&Aなど  
**3月23日（月）** 2025年度 第2回放送人研修会  
「心理的安全性の高い職場は周囲への『リスペクト』から」

## おわりに

今年も本報告書を最後までご覧いただき、ありがとうございました。

今年の表紙には、青空の下に広がる名古屋の街並みを描きました。  
「ONE-FAN」の想いのもと、この街とともに歩み、  
地域の未来に寄り添い続けたい――  
そんな東海テレビの姿勢を表現しています。

私たちの使命は、正確で信頼できる情報と豊かな時間をお届けし、  
地域社会に貢献することです。  
そのためには、放送の公共性を常に意識し、  
一人ひとりが高い倫理観を持って行動し続けることが欠かせません。

これからも地域に寄り添い、視聴者の皆さまから信頼され、  
必要とされる放送局であり続けられるよう努めてまいります。

今後とも東海テレビの取り組みにご理解とご支援を賜りますよう、  
よろしくお願い申し上げます。

### 東海テレビ 2025年度の取り組み

**制作・編集** 東海テレビ放送 コンプライアンス推進局 コンプライアンス推進部  
〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号  
Tel. 052-951-2511（代表） <https://www.tokai-tv.com>  
**発行年月** 2026年8月  
※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。



**東海テレビ放送株式会社**